

総合政策学部

総合政策学科 科目一覧

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
必修科目						
11101	文明論概論	春学期	2	1	野田 宣雄	本年度不開講
11105	総合政策入門	春学期	2	1	田中 恭子	
11106	総合政策入門	秋学期	2	1	深井 慈子	
11111 } 11136	総合政策プロジェクト研究 I		各4	3		
11141 } 11166	総合政策プロジェクト研究 II		各4	4		
選択分野別必修科目						
11171 } 11174	総合政策外国文献講読 I(英語)		各2	3		本年度不開講
11175	総合政策外国文献講読 I(フランス語)		2	3		
11176	総合政策外国文献講読 I(スペイン語)		2	3		
11177	総合政策外国文献講読 I(中国語)		2	3		
11181	統計解析	秋学期	2	2	伏見 正則	本年度不開講
11186	コンピュータプレゼンテーション		2	3		
11191 11192	総合政策数量的アプローチ		各2	3		
選択必修科目						
11201	環境学概論	春学期	2	1・2	目崎 茂和	
11203	マクロ経済学	秋学期	2	1・2	村松 久良光	
11205	ミクロ経済学	春学期	2	1・2	加藤 尚史	
11207	産業心理学	秋学期	2	1・2	高橋 潔	
11211	政治学概論	夏期集中	2	1・2	福井 治弘	
11213	経営学	秋学期	2	1・2	大津 誠	
11215	行政学	秋学期	2	1・2	谷 勝宏	
11217	国際関係論	秋学期	2	1・2	須藤 季夫	
11221 11222	社会学概論	春学期 秋学期	各2	1・2	松戸 武彦	
11223	会計学	秋学期	2	1・2	亀井 孝文	
11225 11226	環境生物学	春学期 秋学期	各2	1・2	江田 信豊	

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
11227	民法	春学期	2	1・2	松倉耕作	本年度不開講
11231	憲法	春学期	2	1・2	小林武	
11233	統計学	春学期	2	2	伏見正則	
11241 } 11244	総合政策外国文献講読Ⅱ(英語)		各2	3		
11245	総合政策外国文献講読Ⅱ(フランス語)		2	3		
11246	総合政策外国文献講読Ⅱ(スペイン語)		2	3		
11247	総合政策外国文献講読Ⅱ(中国語)		2	3		
11301	近現代史	秋学期	2	1~3	川島正樹	
11311	地域文明論 A (アジア)	秋学期	2	1~3	田中恭子	
11316	地域文明論 B (アジア)	秋学期	2	1~3	吉川洋子	
11321	地域文明論 C (ヨーロッパ)	春学期	2	1~3	浜名優美	
11326	地域文明論 D (ヨーロッパ)	春学期	2	1~3	野田宣雄 CAVALLAR Osvaldo	
11331	地域文明論 E (アメリカ)	春学期	2	1~3	遅野井茂雄	
11336	地域文明論 F (アメリカ)	秋学期	2	1~3	浅香幸枝	
11341	地域文明論 G (アフリカ)	春学期	2	1~3	坂井信三	
11351	環境と文明	秋学期	2	1~3	目崎茂和	
11356	宗教と文明	秋学期	2	1~3	VOLPE Angelina	
11361	ジェンダーと文明	春学期	2	1~3	藤本哲史	
11366	産業文明論	秋学期	2	1~3	藤原道夫	
11371	比較社会論	秋学期	2	1~3	松戸武彦	
11376	エコシステム論	秋学期	2	1~3	藤本潔	
11401	総合政策論 I (現代文明論)	秋学期	2	1・2	浜名優美	
11406	総合政策論 I (現代国家論)	秋学期	2	1・2	野田宣雄	
11411	総合政策論 I (現代企業論)	春学期	2	2	猪木武徳	
11416	総合政策論 I (公共政策論)	秋学期	2	2	加藤尚史	
11421	総合政策論 I(グローバルガバナンス)	春学期	2	2	橋本日出男	
11426	総合政策論 II (環境政策論)	秋学期	2	2・3	目崎茂和	
11431	総合政策論 II(国際相互依存論)	春学期	2	2・3	須藤季夫	
11436	総合政策論 II (人的資源論)	春学期	2	2・3	藤原道夫	

総合政策学部 総合政策学科

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
11441	総合政策論Ⅱ(組織行動論)	秋学期	2	2・3	高橋 潔	本年度不開講
11446	総合政策論Ⅲ(先進国政治の課題)		2	3・4		
11451	総合政策論Ⅲ(国際環境と日本)		2	3・4		
11456	総合政策論Ⅲ(労働問題と政策)		2	3・4		
11461	総合政策論Ⅲ(政治構造と社会変動)		2	3・4		
11462	総合政策論Ⅲ(政治構造と社会変動)		2	3・4		
選択科目						
11501	国際社会と法	春学期	2	2~4	青岡 木田 清泉	本年度不開講
11503	日本政治論	秋学期	2	2~4	坂本 隆幸	
11505	人権政策論	春学期	2	2~4	小林 武	
11507	環境保全論	春学期	2	2~4	目崎 茂和	
11511	経済政策論	秋学期	2	2~4	水谷 重秋	
11513	現代家族と法	秋学期	2	2~4	松倉 耕作	
11515	国際政治行政論		2	3・4		
11517	国際貿易論		2	3・4		
11521	国際金融論		2	3・4		
11523	地域経済論		2	3・4		
11525	地域政治変動論		2	3・4		
11527	都市環境論		2	3・4		
11531	アジア国際関係論		2	3・4		
11533	アジア政治論		2	3・4		
11535	法政策比較論		2	3・4		
11537	環境経済学		2	3・4		
11541	地球環境論		2	3・4		
11543	アジア移民論		2	3・4		
11545	日本経営論		2	3・4		
11601	政治過程論	夏期集中	2	2~4	福井 治弘	
11603	国際開発論	春学期	2	2~4	橋本 日出男	
11605	官僚機構論	秋学期	2	2~4	深井 慈子	
11607	労働経済論	秋学期	2	2~4	村松 久良光	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
11611	政治行動論	春学期	2	2~4	坂本 隆幸	本年度不開講
11613	公会計論	春学期	2	2~4	亀井 孝文	
11615	国際組織論		2	3・4		
11617	国際経営戦略論		2	3・4		
11621	国際財務論		2	3・4		
11623	立法過程論		2	3・4		
11625	経営財務論		2	3・4		
11627	非営利組織論		2	3・4		
11631	地方自治論		2	3・4		
11633	マーケティング論		2	3・4		
11635	国際戦略論		2	3・4		
11637	経済援助論		2	3・4		
11641	監査論		2	3・4		
11643	経営労務論		2	3・4		
11645	開発政治論		2	3・4		
11647	経営分析論		2	3・4		

科
目
一
覧

総合政策学部

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11101	文明論概論	必	春学期	2	1	野田 宣雄
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 ヨーロッパにおける歴史観の展開を概観した上で、シュペングラーやトインビーの文明（あるいは文化）を単位とする歴史観を紹介し、さらにハンチントンの「文明の衝突」論にも言及し、現代における文明の意義を考える。

- 【講義計画】
1. シュペングラーの『西洋の没落』について
 2. トインビーの『歴史の研究』について
 3. ハンチントンの『文明の衝突』について
 4. ヴェーバーの著作における比較文化の視点
 5. アジアの中の日本について考える

【評価方法】 成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にしてきめる

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11105	総合政策入門	必	春学期	2	1	田中 恭子
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 総合政策論は、比較的新しい学問分野であり、基礎というより応用に主眼をおく、学際的な分野である。しかし、基礎を抜きにしては、総合政策論は成り立たない。この授業では、そうした総合政策論の基本的性格を理解させ、政治学、法学、経済学、社会学等の基礎分野とどう関係にあり、それらをどう参照すべきかを考えさせる。また、総合政策論の初歩的な方法論の構築と、総合政策論の応用の試みにも踏み込んで考察する。

- 【講義計画】
1. 科目の目的と内容、講義計画
 2. 政策科学の起源とその背景——欧米と日本
 3. アメリカ型政策科学の発展
 4. 政策科学の諸類型
 5. 政策決定の基礎概念
 6. 政策決定の構成要素
 7. 政策決定のモデル（1）
 8. 政策決定のモデル（2）
 9. 政策過程の諸段階
 10. 政策分析の方法と戦略
 11. 政策評価の意義と方法
 12. 結び：政策科学と民主政治

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 宮川公男『政策科学入門』東洋経済新報社、1995年。

【その他】 参考書：加藤寛・中村まづる『総合政策学への招待』有斐閣、1994年。
大谷実ほか『総合政策科学入門』成文堂、1998年。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11106	総合政策入門	必	秋学期	2	1	深井 慈子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 総合政策論は、比較的新しい学問分野であり、基礎というより応用に主眼をおく、学際的な分野である。しかし、基礎を抜きにしては、総合政策論は成り立たない。この授業では、そうした総合政策論の基本的性格を理解させ、政治学、法学、経済学、社会学等の基礎分野とどういう関係にあり、それらをどう参照すべきかを考えさせる。また、総合政策論の初歩的な方法論の構築と、総合政策論の応用の試みにも踏み込んで考察する。

【講義計画】

1. 科目の目的と内容、講義計画
2. 政策科学の起源とその背景——欧米と日本
3. アメリカ型政策科学の発展
4. 政策科学の諸類型
5. 政策決定の基礎概念
6. 政策決定の構成要素
7. 政策決定のモデル（1）
8. 政策決定のモデル（2）
9. 政策過程の諸段階
10. 政策分析の方法と戦略
11. 政策評価の意義と方法
12. 結び：政策科学と民主政治

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 宮川公男著 『政策科学入門』 東洋経済新報社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11181	統計解析	選必	秋学期	2	2	伏見 正則	
他の科目との関連	「統計学」の履習を前提とする。					他学科履修	不可

【講義内容】 「統計学」の学習を前提として、標本に基づく推測統計学について解説する。推測統計学の基礎理論の手法と応用について理解することを目的とする。また、統計ソフトウェアを使用して、実際に確かめることの重要性を理解する。

【講義計画】

1. 統計的推定
2. 統計的検定
3. 回帰分析
4. 統計ソフトウェア（SPSS）の使用法
5. 各種データの解析

【評価方法】 出欠、レポート、筆記試験の結果等を総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11201	環境学概論	選	春学期	2	1・2	目崎 茂和	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 Only One Earth かけがえない環境をいかに愛せるか

【講義内容】 本講義では、地球環境に関する基本的な理解の修得を水圏の観点から目指すべく、日本の海域を始め東アジア全般の風土を例にとりあげながら、自然・生物圏の形成・進化・変動などの基礎理論を中心に学習する。さらに、環境に対する人間の思想や自然観、また環境問題への具体的対応について検討する。

- 【講義計画】
- (I) 環境学をなぜ学ぶのか
 - 楽しい環境学、役立つ環境学はあるのか
 - 私的な環境を見つめ直そう
 - (II) 地球人になるための環境学
 - 地球環境の成り立ち。
 - 地球環境問題の行方
 - (III) 生々した環境を
 - エコライフと環境政策

【評価方法】 レポート、発表、テストなどによる。

【テキスト】 目崎茂和 (1998)『図説 風水学』(東京書籍、¥1500+α)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11203	マクロ経済学	選必	秋学期	2	1・2	村松 久良光	
他の科目との関連	ミクロ経済学、労働経済論、総合政策論Ⅲ (労働問題と政策) 国際貿易論、国際金融論					他学科履修	可

【講義内容】 マクロ経済学では、生産活動を営む企業部門と消費活動を営む家計部門、公共財の提供と政策を司る政府部門、そして海外部門の4つの部門から一国の経済が構成されると捉える。そして、主体の行動を分析し、その相互作用から総体としての産出量であるGDPの決定メカニズムを説明し、失業、インフレの発生とその制御のための政府の基本的な政策、マクロ経済における金融の役割、貿易、為替レートの効果などを学ぶ。これを学ぶことによって経済学の視点から総合的な政策立案の基礎的な枠組を修得する。

【講義計画】 下記のテキストにしたがって講義をし、東アジアの経済危機と再生をトピックスとする。

- | | | |
|------|-------------------|-------------------|
| 第1回 | 自動車産業と経済学 (第1章) | 2 経済学とは何か |
| | 1 自動車産業：その簡単な歴史 | |
| 第2回 | 3 混合経済における市場と政府 | 4 ミクロ経済学とマクロ経済学 |
| | 5 科学としての経済学 | 6 なぜ経済学者の意見は異なるのか |
| 第3回 | マクロ経済学と完全雇用 (第8章) | |
| | 1 マクロ経済活動の目的と測定 | 2 経済成長 |
| 第4回 | 3 失業 | 4 インフレーション |
| 第5回 | 5 基本的マクロモデル | 6 労働市場 |
| | 7 生産物市場 | |
| 第6回 | 8 資本市場 | 9 一般均衡 |
| 第7回 | 経済成長 (第9章) | 10 基本的完全雇用モデルの拡張 |
| | 1 成長の基礎要因 | 2 生産性 |
| 第8回 | 3 東アジアの奇跡と生産性 | |
| 第9回 | 失業と総需要 (第10章) | |
| | 2 経済不況：概説 | 3 総需要の決定要因 |
| 第10回 | 4 消費 | 5 投資 |
| 第11回 | 6 政府と貿易 | 8 総需要の再生 |
| 第12回 | 東アジアの経済危機と再生 | |

【評価方法】 ・講義への参加熱心度と定期試験の結果から評価する。

【テキスト】 ジョセフ・E/スティグリッツ著『スティグリッツ入門経済学第2版』（東洋経済新報社、1999.4）著者は、世界で最も著名な理論経済学者であり、同時に世界銀行上級副総裁として実際の政策（東アジアの経済）にも関与している意欲的な学者である。講義では、この本の一部しか使わないが、「ミクロ経済学」のテキストとしても使われる予定であり、また、3、4年次になって必要に応じて自習するのに最適な本である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11205	ミクロ経済学	選必	春学期	2	1・2	加藤 尚史
他の科目との関連	マクロ経済学					他学科履修 可

【講義内容】 経済学は、総合的な政策を立案するにあたって有用であり、分析の対象に従ってふたつに分けられる。そのひとつのミクロ経済学においては、経済を構成する個々の主体の行動が扱われる。講義では、ミクロ経済学に関する理論的な解説を加えると同時に、現実的な問題の分析を通してその有用性を示す。

【講義計画】

1. 序論
2. 家計の行動
選好/価格/所得/需要
3. 企業の行動
技術/収入/費用/供給
4. 市場の構造
均衡/調整/変化

【評価方法】 定期試験と出席状況に基づいて評価する。

【テキスト】 ジョセフ・E・スティグリッツ『入門経済学』（第2版）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11207	産業心理学	選必	秋学期	2	1・2	高橋 潔
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 能力・性格・職務行動などの個人差に関して展開されてきた様々な理論と測定技法を、企業組織における募集・採用・選抜・人材評価などの人事政策に応用するために、心理学の基礎理論と応用研究を展望する。とくに、職務分析・採用・管理職選抜・妥当性・人事考課法・雇用差別などについて、関連する諸研究の知見を紹介する。

【講義計画】

講義計画

1. 講義展望
2. 心理テストにおける個人差、男女差
3. 男女雇用機会均等
4. 能力を測る心理テスト1：知能検査
5. 能力を測る心理テスト2：適性検査
6. 性格を測る心理テスト1：性格検査
7. 性格を測る心理テスト2：投影検査
8. 採用面接で何が測られるか
9. 採用面接の落とし穴
10. 個人の貢献度を査定する：人事考課
11. 仕事の成果を評価する：目標管理
12. 産業界にたいする心理学のかかわり

【評価方法】 定期試験による

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11211	政治学概論	選必	夏期集中	2	1・2	福井 治弘	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 政治、すなわち公共財及びサービスの生産、分配、消費をめぐる行為と規範と、その理論的、体系的研究としての政治学を理解させるために、「権力」、「正統性」、「自由と平等」、「公益」といった現代政治学の基礎的概念と主要な研究方法を解説する。

- 【講義計画】
- 1 政治と政治学
政治とは何か
政治学とは何か
 - 2 政治と権力
権力と権威
国際政治における権力
 - 3 政治とイデオロギー
イデオロギーと政策
ナショナリズム
 - 4 集合的選択の政治
集合行為の理論
国際的集合財
 - 5 政策過程に関する理論
グループ論
官僚政治論
多元主義・コーポラティズム
エリート論
 - 6 政治体制論
政治システム論
国家とは何か
制度とは何か
世界システム

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 大嶽秀夫、鴨武彦、曾根泰教著 『政治学』 有斐閣

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11213	経営学	選必	秋学期	2	1・2	大津 誠	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 現代社会における企業及び非営利組織の経営活動について考察する。企業等を有機的経営組織体として総合的・体系的に理解することに重点を置き、会計、財務、マーケティング、人事等経営の個別機能について言及し、経営者の役割、経営のグローバリゼーション、日本的経営、経営戦略、組織構造などについても講義する。

- 【講義計画】
- 第1回 企業と環境
 - 第2回 企業の社会的責任
 - 第3回 経営者の職能
 - 第4回 経営理論（古典的アプローチ）
 - 第5回 経営理論（今日のアプローチ）
 - 第6回 経営戦略プロセス
 - 第7回 経営戦略アプローチ
 - 第8回 経営組織
 - 第9回 組織再設計
 - 第10回 グローバル経営

第11回 日本的経営
 第12回 経営の今日的課題

【評価方法】 中間テスト 40
 定期試験 60
 計 100

【テキスト】 岸川善光『経営管理入門』1999年 同文館

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11215	行政学	選	秋学期	2	1・2	谷 勝 宏	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 現代行政の政治分析

【講義内容】 従来の伝統的な行政学である行政管理論の基本的な概念の説明を行う。さらに、現代の日本の官僚制の分析や、行政機構における政策の形成・執行過程、中央・地方政府間関係、諸外国の行政の実態及びそれとの比較、行政改革の動向や、行政とNPOの関係など、現在の行政・行政学の主要な研究・問題領域についての最近の理論や実態について説明を行う。これらを通じて現実の日本の政治・行政を観察し、分析する方法を身に付けることを目標とする。

【講義計画】 第1回 行政学の枠組み
 第2回 行政システムの発展
 第3回 現代日本の行政システム
 第4回 中央・地方関係と地方自治
 第5回 官僚制と政策形成
 第6回 行政組織の基礎理論
 第7回 組織設計
 第8回 組織の管理運営
 第9回 公務員制度と人事行政
 第10回 政策の実施
 第11回 政策評価と行政責任
 第12回 行政の新しい展開

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 村松岐夫『行政学教科書』（有斐閣）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11217	国際関係論	選必	秋学期	2	1・2	須藤 季夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 国際関係の歴史、概念、構造を概観し、政策思考を高める観点から相互依存、対外政策やレジーム・アプローチ等を中心とした基礎知識を習得する。とくに、国際社会が直面する諸問題を歴史的ならびに理論的に考察し、現在の国際社会を体系的に捉える分析枠組みを学習する。

【講義計画】 [1] 国際関係論 (IR) とは何か [10] 第三世界と国際関係
 [2] 国際関係の歴史的展開 [11] 国際関係と日本外交
 [3] 国際関係の捉え方 (リアリズムとリベラリズム) [12] アジアの勃興と国際関係の挑戦
 [4] 国際関係の理論 (世界システム論と政策決定論)
 [5] 国際関係の構造 (米国、ロシア、中国)
 [6] 冷戦の展開と終焉
 [7] 安全保障と地域紛争

- [8] ポスト冷戦と相互依存の世界
 [9] グローバリズムとリージョナリズム

【評価方法】 レポートと期末試験

【テキスト】 原 彬久編『国際関係学講義』有斐閣、1996

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11221 11222	社会学概論	選必	春学期 秋学期	各2	1・2	松戸 武彦	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 複雑、多岐にわたる社会を理解するために、広範な領域で社会学的知識が求められている。しかし、人間についての諸科学のなかで、社会学に独自の位置を与えるような、中心的概念と視点等を簡単に紹介することは難しい。そこで本講義では、社会学の歴史のなかでこれまで受け継がれ、議論されてきた著名な「命題」を紹介し、それによって社会学の知識を身に付けさせる。

- 【講義計画】
- 1 社会学の入門の入門、サザエさんとちびまるこ
 - 2 産業社会と女性－赤ずきんのテーマ
 - 3 マックスヴェーバーと産業調査
 - 4 セクシャルハラスメントの社会学－日常的権力の構造化
 - 5 学校に行くこと－産業社会のもう一つの特性
 - 6 ライフサイクル－貧乏研究の社会政策的意味
 - 7 権威主義の諸相
 - 8 30代で選別－企業社会で生きること
 - 9 社会学の方法入門
 - 10 海外進出企業の中の労働者
 - 11 再就職
 - 12 福祉国家へのアプローチ

【評価方法】 定期試験。授業への参加度（質疑応答）も評価対象とする。

【テキスト】 松戸武彦・高田利武編『変貌するアジアの社会心理』ナカニシヤ出版

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11223	会計学	選必	秋学期	2	1・2	亀井 孝文	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 企業会計を中心に会計行為に関わる基礎的な諸概念および計算書の作成と表示機能等を理論と制度の両面から解説する。また、管理会計の領域や非営利事業の会計を考慮に入れながら、会計の果たす機能を考える。その理論および制度がいまや環境問題を含めて社会的な観点と世界的な観点を必要としていることにも言及し、一般企業と同時に行政においても要請される会計思考を修得させることを目指す。

- 【講義計画】
- (1) 「会計」の役割、会計学と隣接社会科学との関連、会計学における諸領域簿記
 - (2) 複式簿記の意味と諸概念（仕訳、転記等）、帳簿組織の基本構造（仕訳帳と元帳）
 - (3) 勘定科目の名称、仕訳帳への記入と元帳への転記の事例、決算の意味
 - (4) 決算の手續、損益計算書と貸借対照表との計算構造的関係
- 会計原理
- (5) わが国における会計制度の生成と発展、とくに、証券取引法会計と商法会計
 - (6) 企業会計原則の役割、その構成と内容（とくに、一般原則の内容）
 - (7) 費用収益の認識と測定（発生主義と実現主義の意味）、損益計算書の構造と本質
 - (8) 貸借対照表の構造と本質（貸借対照表の言明能力）、資産の評価：1（原価評価）
 - (9) 資産の評価：2（時価評価）、負債の評価（とくに、退職金・年金債務の問題）

- (10) 資本の内容と構成（資本剰余金と利益剰余金の意味、その処分可能性と手続）
 発 展
 (11) 会計制度の改革（時価主義会計、連結財務諸表、現金収支計算書、税効果会計等）
 (12) 会計学の拡大（公会計〈国・地方自治体の会計〉、環境会計・環境監査等）

【評価方法】 出席状況を重視する。試験・レポートによって評価するが、欠席過多の者は学期末の試験を受験できない。

【テキスト】 未定

【その他】 経営分析論、監査論、公会計論を履修する場合の前提となる科目である。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11225 11226	環境生物学	選必	春学期 秋学期	各2	1・2	江田 信豊	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 生態系のシステムのなかで、環境評価指標として、最近昆虫類は重要な構成要因と考えられるようになった。本講義では、まず生態学にベースをおいた基礎的な生態系のシステムを習得させ、昆虫類を中心として、都市環境と里山環境の比較を行う。その中で、それぞれの環境における、生物の多様性についての考察を行ってゆく。昆虫の捕獲採集・同定分類を通して、里山環境における生物の多様性を認識させる。さらに講義では昆虫の多様性の歴史と昆虫の持つ環境特性について、観察実験と講義の両面から論じてゆく。

【講義計画】

1. 里山環境を構成する生物たち
2. 3. 海上の森の観察（実験・観察）
4. 昆虫の分類
5. 6. 海上の森の昆虫の分類（実験）
7. 8. 昆虫と共生する原生动物の観察（実験）
9. 環境指標種としての昆虫
10. 消え行く野生動物
11. 愛知万博と海上の森
12. 里山環境の保全

【評価方法】 レポートと出席で総合的に評価する。

【テキスト】 授業中にプリントを配布すると共に参考図書については授業で示す。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11227	民法	選必	春学期	2	1・2	松倉 耕作	
他の科目との関連	法学、憲法、家族法					他学科履修	可

【副 題】 生活に必要な法律知識

【講義内容】 私法を中心である民法のうち、財産法を中心に講義する。扱う領域としては、担保法、契約法、不法行為法などを中心として講義する。また、法律の変遷などに論及することにより、法政策の変化を理解させ、政策・立案の思考を取得できるように講義する。

- 【講義計画】
- (1) 民法入門
 - (2) 不法行為 1 交通事故
 - (3) 同 2 犬の事故
 - (4) 契約 未成年者の契約
 - (5) 同 消費者保護
 - (6) 同 どのような場合に契約は無効となるか
 - (7) 担保法 借金する場合の留意点
 - (8) 同 家の購入とローンの設定
 - (9) 不動産取引の留意点
 - (10) 裁判外での紛争の解決
 - (11) 裁判所による保護
 - (12) 質問時間、テストについて

【評価方法】 テストの成績と受講態度

【テキスト】 嵯峨野書院・資料で学ぶ財産法2（松倉耕作編）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11231	憲法	選	春学期	2	1・2	小林 武	
他の科目との関連	「民法」を受講することが望ましい。					他学科履修	可

【副 題】 政策の目でみた憲法学

【講義内容】 わが国の国家・社会の全体にわたる政策を支える憲法について概観する。とくに憲法政策に重点を置き、まず憲法が、現実の立法・行政・司法の各過程を通してどのように実現されているかを論じて、憲法を現実化するための政策を考える。次に、将来の憲法のあり方をめぐって提起される憲法改正の問題をとりあげ、改憲論のこれまでの経緯と現状、そして国と社会の基本法の望ましい姿を考察する。

- 【講義計画】
- ほぼ次の順序で進める。
- 1 開講にあたって。憲法とは何か——憲法と政策
 - 2 近代憲法の誕生とあゆみ
 - 3 日本の憲法
 - 4 日本国憲法の制定過程と基本原理
 - 5 国民主権と天皇制のあり方
 - 6 平和をつくる——平和政策の試み
 - 7 人権——実態と人権確保の政策
 - 8 国の機構と政策形成の過程
 - 9 司法制度と裁判
 - 10 地方政策を地域でつくる
 - 11 新憲法への展望
 - 12 憲法政策の先にみえるもの。閉講のこぼれ

【評価方法】 テスト（筆記試験）による。

【テキスト】 小林 武著『ようこそ日本国憲法へ』（法学書院、2200円）

【その他】 毎時間、具体的な憲法問題、つまり憲法政策の日常的な展開の姿を、新聞・TVのニュースをとりあげて話す。そのことをとおして、わかりやすい講義にしたい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11233	統計学	選必	春学期	2	2	伏見 正則	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 統計学の基礎的概念と手法について解説し、統計学的なものの方と考え方とを培う。確率と記述統計について講義する。

【講義計画】

- データの整理（記述統計）
平均、分散、ヒストグラム、散布図、相関係数、など。
- 確率分布
確率、独立性、条件つき確率、二項分布、ポアソン分布、正規分布、など。

【評価方法】 出欠、レポート、筆記試験の結果等を総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11301	近現代史	選必	秋学期	2	1～3	川島 正樹	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 アメリカ合衆国近現代史とアメリカ合衆国が現在直面する大都市の差別と貧困

【講義内容】 常に同時代史としての現代史を意識しつつ、近現代という時代区分の意義を押さえ、近代世界システム論やヨーロッパ中心主義批判論を手がかりに、近現代の出発点の本質的問題性を把握する。とくに、奴隷貿易と奴隷制に注目しながら大西洋貿易システムを通じた英国の覇権の確立と英領北米植民地の発展、独立を経て南北戦争と二つの大戦を契機とした米国の覇権の確立から「第三世界」を巻き込んだ冷戦、そして冷戦後までの世界を、「上から」と「下から」の双方の視点を交錯させつつ概観する。

【講義計画】

- 第1回 はじめに：本講義の趣旨や最終的獲得目標などの説明
- 第2回 近現代史の時代区分の意味（その1）：コロンブスによる新世界到達の意味
- 第3回 近現代史の時代区分の意味（その2）：「自由」と「不自由」の同時展開
- 第4回 イギリスの覇権と北米植民地の発展：奴隷制が支えた13植民地
- 第5回 アメリカ合衆国の独立：「革命」と奴隷制の同居の意味
- 第6回 南北戦争と奴隷制：奴隷制が争点となるまでと廃止にいたる過程
- 第7回 19世紀末から20世紀初頭の差別体制の復活：差別体制復活の経緯と背景
- 第8回 冷戦と市民権運動の高揚：キング牧師の夢に燃えた1960年代のアメリカ
- 第9回 いまだ果たされることのない夢：法的差別から事実としての差別へ
- 第10回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その1）：「アンダークラス」の苦境
- 第11回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その2）：「アンダークラス」と人種偏見
- 第12回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その3）：「アンダークラス」の救済方法

【評価方法】 小テスト（3回実施、45%）と最終レポート（55%）による。授業中の積極的な態度（質問や意見陳述）はプラスに評価する（エクストラ・クレジットとして加算）。

【テキスト】（テキストというより参考書として次の5冊を推薦する。括弧内は対応授業時）

- ・川北稔『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書276）（2～4）。
- ・安武秀岳『大陸国家の夢 新書アメリカ合衆国史①』（講談社現代新書929）（4～6）。
- ・野村達朗『フロインティアと摩天楼 新書アメリカ合衆国史②』（講談社現代新書933）（6～7）。

- ・上杉忍『パクス・アメリカーナの光と陰 新書アメリカ合衆国史③』（講談社現代新書938）（8～9）。
- ・ウィリアム・J・ウィルソン『アメリカ大都市の差別と貧困』（明石書店、定価4800円）（9～12）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11311	地域文明論A（アジア）	選	秋学期	2	1～3	田中 恭子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 東アジアの近代

【講義内容】 北東アジア（現在の日本・韓国・朝鮮・中国）は、古代から近世に至るまで圧倒的な中華文明の影響下にあったが、東南アジアは、ベトナムを除いてインド文明圏に属していた。まず、両地域それぞれの文明の変遷と外部世界との交流を概観し、次に、伝統文化の違いが、北東アジアと東南アジアの近代化にどのように反映したかを検討する。さらに、近代化過程における文明の変容、とくに西洋文明のインパクトとその受容形態を分析し、最後に、北東アジア・東南アジアにおける新しい文明の創造と伝播を展望する。

- 【講義計画】
1. 中華文明圏とインド文明圏
 2. 西洋との出会い——大航海時代
 3. 「西洋の衝撃」
 4. アヘン戦争と日本の開国
 5. 中国と日本の近代化改革
 6. 東南アジアの植民地化（1）海洋部
 7. 東南アジアの植民地化（2）大陸部
 8. 東南アジアの近代化
 9. アジアのナショナリズム
 10. 太平洋戦争
 11. 冷戦、そして経済発展の落差
 12. 新たなアジア文明

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 なし

【その他】 参考書 尾形勇・岸本美緒編『中国史』山川出版社、1998年、第5～8章。
石井米雄編『東南アジアの歴史』講座東南アジア学4、弘文堂、1991年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11316	地域文明論B（アジア）	選必	秋学期	2	1～3	吉川 洋子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 東アジア（現在の日本・韓国・朝鮮・中国）は、古代から近世に至るまで圧倒的な中華文明の影響下にあったが、東南アジアは、ベトナムを除いてインド文明圏に属していた。まず、両地域それぞれの文明の変遷と外部世界との交流を概観し、次に、伝統文化の違いが、東アジアと東南アジアの近代化にどのように反映したかを検討する。さらに、近代化過程における文明の変容、とくに西洋文明のインパクトとその受容形態を分析し、最後に、東アジア・東南アジアにおける新しい文明の創造と伝播を展望する。

- 【講義計画】
- 1 文明論、地域主義
 - 1-1 Samuel Huntington 『文明の衝突』説 ポスト冷戦期、21世紀
 - 1-2 梅沢忠夫「文明の生態史観」1960年代、西欧と日本が類似、東南アジアは？
 - 1-3 「東南アジア」の用語、ASEAN, APEC, ARF
 - 2 地域の捉え方、世界、圏の捉え方
 - 2-1 東南アジアへの視座の多様性、文明の接点→東南アジア世界
 - 2-2 稲作社会、海域世界（第3章） マレー人世界（立本）、大東亞圏、自由主義圏
 - 3 文化の混ゆる、クレオール概念、重層化

- 3-1 基層文化、部族、焼畑 アニミズム、社会的価値観、慣習法、
- 3-2 東南アジアの外文明：文明の伝播、植民地化（第2章、第8章）
- 3-3 民族国家から国民国家へ形成：複合民族（多言語、多宗教）民族の多数化、少数化

II 文化と外文明の波

- 4-1 インド化 ヒンドゥー仏教の王朝文化（セデス）9世紀-13世紀
チャンパ、クメールのアンコール朝 ビルマのパガン朝
スマトラのスリヴィジャヤ、中部ジャワ、バリ島（遺跡第4章）
- 4-2 中国化=植民地化「ベトナム」1世紀から
- 4-3 交易・貿易による文明の接触交流 13世紀から（王室貿易、海洋貿易第3章）
大陸部→上座仏教化 スコタイ、アユタヤ チェンマイの各王朝
島嶼部→イスラム化 シンガサリ朝、東ジャワのマジャパイト王朝、マラッカ王朝
- 4-4 大航海時代 重商業主義による植民地化、カトリック化、15世紀-17世紀
→ポルトガル（マラッカ）スペイン（フィリピン）オランダ（ジャワ）
- 4-5 19世紀植民地化 による欧米近代文明化 植民地国家の建設
- 4-6 グローバル化の中の東南アジア

III 国民国家フィリピン：「重層のバイ」

- 5-1 基層文化：マレー文化、バランガイ社会、山岳部族
- 5-2 イスラム文明の伝播→南部フィリピン・ムスレムの少数民族化
- 5-3 スペインカトリック文明 植民地政策→近代文明と大衆文化
①フォーク・カトリシズム②「フィリピン群島」「フィリピン人」「植民地国家」の誕生③論争19世紀末「フィリピン革命」をどう見るか
- 5-4 アメリカによる植民地化 植民地国家制度、法律、英語、近代教育による改造
- 5-5 フィリピン国民国家：①強い社会、②農村と都市、伝統社会と市民社会（権威主義とピープルパワー、カトリック勢力の強さ）国家制度：「共和制」「民主制」
- 5-6 法体系の重層化：慣習法（少数民族土地法）、共和国法、ムスレム家族法、世界基準：民主制、人権、環境、少数者保護、ローカル基準の実施能力
- 5-7 グローバル化とフィリピン（英語、ヒトの移住、出稼ぎ移民600万人、180カ国）

【評価方法】 定期試験と出席

【テキスト】 未定

【その他】 参考書（主要）上智大学アジア文化研究所編「入門東南アジア研究」めこん
石井米雄・桜井由躬雄「東南アジア世界の形成」（世界の歴史12）講談社 1985年
サミュエル・ハンチントン『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書2000年
ジョルジュ・セデス『インドシナ文明史』1969年（原本1962年）
梅沢忠夫『文明の生態史観』中央公論社 1967年
矢野暢編『東南アジア学への招待』日本放送出版協会 1977年
立本成文『地域研究の問題と方法』京都大学出版会1996年（マレー世界ムラユ世界
アンソニー リード『大航海時代の東南アジア—貿易風の下で』I、II（未刊）みすず

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11321	地域文明論C（ヨーロッパ）	選必	春学期	2	1～3	浜名 優美	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 地中海世界論は地理的には地中海とその周辺地域（ヨーロッパ、北アフリカ、中近東）を対象とする。まず地理的な環境の問題を取り上げ、次に歴史的には16世紀以降の地中海世界=経済を中心とする近代の経済・社会史を論じ、さらに文明の衝突として考えられるキリスト教世界とイスラム世界の問題を歴史的文明論として取り上げる。

- 【講義計画】
- 1 文明の十字路としての地中海世界の空間
 - 2 地中海世界における民族紛争はなぜ絶えないか
 - 3 キリスト教とイスラム
 - 4 16世紀における帝国主義
 - 5 経済=世界の概念
 - 6 世界の尺度としての歴史学について

【評価方法】 レポートおよび定期試験による。

【テキスト】 参考文献として、ブローデル『地中海』全10巻、浜名優美訳、藤原セレクション。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11326	地域文明論D (ヨーロッパ)	選必	春学期	2	1~3	野田 宣雄 CAVALLAR Osvaldo	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 (概要) ローマ帝国の崩壊後、ヨーロッパを舞台に出現したいくつかの帝国の歴史を辿り、その内部秩序、対外姿勢、文明あるいは宗教とのかかわり等について考察する。
(オムニバス方式)
(オズワルド・カバラル教授) 13世紀末以降のイタリア文芸復興期に活躍した政治家や法思想家(実務家)を素材に、ヨーロッパ文明の一面を考察する。
(野田宣雄教授) 現代におけるヨーロッパ連合やドイツを中心とした「中欧」などの広域秩序への志向を高める。

【講義計画】 (前半)
1) ローマ帝国の破壊：ローマ法の俗化と野蛮民族の固有法
2) ローマ法の復興と大学の起源 (特に総合大学「ラ studium generale」の概念の発展を辿る)
3) 特権のある社会：中世紀の文明における法学者、弁護士、法学生の位置と特色
4) 貴族と市民：バルトルス デ サツソフェラト「標しと紋章に就いて」
5) 市民権 (特に女性の市民権の問題)
6) 権力の問題：バルトルス デ サツソフェラトの「専制者に就いて」とマキアヴェリ「君主」。 (以上、カバラル)
(後半)
1、グローバル化にともなう世界秩序の再編成
2、ローマ帝国の崩壊と民族移動
3、神聖ローマ帝国の形成と歴史
4、ドイツの近代国民国家形成の遅れ
5、20世紀における国民国家と広域秩序 (以上、野田)

【評価方法】 出席状況と学期末のレポート (3000字) (カバラル)
成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にしてつける。(野田)

【テキスト】 1) マキアヴェリの「君主」、2) バルトルス デ サツソフェラトの「専制者に就いて」の英訳、3) バルトルス デ サツソフェラト「標しと紋章に就いて」の英訳。2) と3) のテキストが配布されます。(カバラル)

【その他】 オムニバス

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11331	地域文明論E (アメリカ)	選必	春学期	2	1~3	遅野井 茂雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 グローバル化とラテンアメリカ

【講義内容】 ラテンアメリカ、とくに南米に焦点を絞り、この地域の文明を形成する固有の原理を、その歴史プロセスとともに、民族、社会、政治、経済、思想の諸側面から総合的に解明する。さらにグローバリズムとの対立・葛藤・受容のダイナミックな過程を明らかにすることによって、21世紀に立ち向かうラテンアメリカ世界を展望する。アジア諸国等との開発体制の相違についても検討する。

【講義計画】
1. ラテンアメリカ概観
2. 多様性の中の統一
3. 特異な民族形成
4. 民族と社会
5. 文化価値体系 (I) : 政治文化

6. 文化価値体系（Ⅱ）：法文化
7. グローバリゼーションの衝撃とラテンアメリカ
 - (1) 大航海時代と植民地
 - (2) 産業革命と自由主義経済
 - (3) 世界恐慌とポピュリズム、国家中心型発展
 - (4) 債務危機とワシントン・コンセンサス
 - (5) 市場経済化の挑戦
 - (6) 民主化の波とラテンアメリカの民主主義
8. まとめ

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 : 加茂雄三・暹野井茂雄 他『ラテンアメリカ』自由国民社 1999年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11336	地域文明論F（アメリカ）	選必	秋学期	2	1～3	浅香 幸枝	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 トランスナショナル・エスニシティとラテンアメリカ

【講義内容】 本講義では、ラテンアメリカ、とくに中米に焦点を絞り、それらの国々と日本との関係を考察し、将来の環太平洋諸国間の友好関係のモデルとなりうるかを検討する。そのために、ラテンアメリカおよび日系移民の歴史や両地域間の草の根交流等について学ぶ。

- 【講義計画】
1. ラテンアメリカと日本関係の概略
 2. 政治・外交関係史におけるラテンアメリカと日本
 - 初の平等条約締結国としてのメキシコ
 - 日・米・中南米関係の特徴
 3. 移住と日系社会の形成
 - 西欧列強諸国の支配下での100年前の日本とラテンアメリカ
 - 北米移住から中南米移住へ
 - 移住100年の歴史
 - 日系社会の形成と影響力
 4. パンアメリカン日系協会の活動
 - 民主化とグローバリゼーションの時代
 - トランスナショナル・エスニシティとは何か？－越境する日本性－
 - ペルーのフジモリ大統領とパンアメリカン日系協会
 - 日系人と日本との関係
 5. 私たちにできる国際貢献とは何か？

【評価方法】 成績は出席状況、授業への積極的な参加状況、レポートを総合評価する。

【テキスト】 プリント配布

【その他】

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11341	地域文明論G（アフリカ）	選必	春学期	2	1～3	坂井 信三	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 西アフリカ、とくにその内陸サバンナ地方は、ブラック・アフリカの文化伝統と外来のイスラームとが相まって、複雑な歴史的様相を示す独自の文明を形成した地域である。講義では多様なものの共存からなるこの地域の文明の特質を、社会構造、宗教、諸民族の生業分化と共生の様相などから論じる。

- 【講義計画】**
1. アフリカ大陸概観
 2. アフリカ史の1万年
西アフリカの古気候と諸民族の分化
緑のサハラ時代
乾燥化の歴史
 3. ニジェール川中流域の歴史と文化の形成
国家の形成と長距離交易
大西洋奴隷貿易の影響
イスラームの普及
 4. 異なる諸集団の共生
内陸デルタ地方の自然と生業分化
市場と経済的交換のシステム
都市の構造
異質なものの共存の流儀

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11351	環境と文明	選必	秋学期	2	1～3	目崎 茂和
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 地球環境と日本文明のゆくえに責任をもとう

【講義内容】 本講義では、環境と文明の関わりについて学ぶため、主な古代文明の発達を、それを生み育んだ自然環境やその変遷との関係から概観する。さらに、東洋の環境思想の風水論、日本の文化論や日本人の特徴を環境（風土）論の視点から検討し、グローバル化した現代文明と地球環境の今後を考える。

- 【講義計画】**
- (I) 現代文明のゆくえ
 - ・現代世界への視点、地球環境問題と地域環境問題
 - (II) 文明を育てた地球
 - ・自然環境と人類進化
 - ・多様な文明と環境
 - (III) 地球学と日本
 - ・環境思想の流れ
 - ・風土論と風水学

【評価方法】 レポート、発表、テストなどによる

【テキスト】 目崎茂和『図説 風水学』（東京書籍）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11356	宗教と文明	選必	秋学期	2	1～3	VOLPE Angelina
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 21世紀に向かって、宗教のチャレンジ

【講義内容】 本講の目的は二つに分かれている。まず、世界文明と宗教心との密接な関わりを分析する。どんな文明、文化、時代においても人類は神の探求を続けてきたことが確かである。ここでは、自然的宗教から物質的無神論までを対象として、宗教心と宗教を考える。そして後半では、戦前と戦後の日本人の宗教心と宗教の歴史はどのように変わったかを分析する。

- 【講義計画】
- 1回 言葉の意味
 - 2回 人間の思考力と宗教心
 - 3回 宗教心と宗教
 - 4回 現代日本人の宗教観
 - 5回 「聖なるもの」「神」「仏」の共通点
 - 6回 神の存在の哲学的証拠
 - 7回 文化の違いを越える神観
 - 8回 多神教と一神教
 - 9回 キリスト教と日本文化との出会い
 - 10回 日本人のキリスト教に対する抵抗
 - 11回 日本人のキリスト教への好意
 - 12回 結論

【評価方法】 定期的な小レポート、期末レポートを参考にしてつける。

【テキスト】 講師が資料を毎回準備し、学生に渡す。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11361	ジェンダーと文明	選必	春学期	2	1～3	藤本 哲史	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 21世紀における公共政策や企業経営戦略の立案において重要なエレメントとなるジェンダーの問題について考察し、ジェンダー・パースペクティブの政策応用可能性を探索する。主として雇用、教育、家族を考察対象分野とし、これらの分野における現在までの性の社会的構築および階層化のトレンドを概観し、男女を取り巻く現代社会状況の認識へとリンクさせる。

- 【講義計画】
- (1) ジェンダーとは。社会のジェンダー化について。
 - (2) 性役割と性のステレオタイプ、性役割社会化（2回）
 - (3) 学校教育におけるジェンダー、学校組織のジェンダー化
 - (4) 雇用労働と性の不平等（2回）
 - (5) 家庭内性役割分業と男女間の力のアンバランス
 - (6) 離婚と家族の変容
 - (7) 性暴力：法女性学のアプローチ
 - (7) ドメスティック・バイオレンス、妻や恋人に対する暴力
 - (8) 同性愛と人権、ホモフォビア
 - (9) エイズ差別
 - (10) リプロダクティヴ・ライツ、生殖技術の問題点

【評価方法】 期末定期試験100%

【テキスト】 指定テキストなし。必要に応じて資料を配布する予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11366	産業文明論	選必	秋学期	2	1～3	藤原 道夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 産業文明を理解するためには、「通文化的インダストリアリズム（産業化論）」の論理と各国の歴史・社会を背景に形成されてきた個別的な制度や過程との関係を探る必要がある。本講義では労使関係を取り上げ、「産業民主主義」など各国に共通している価値理念を確認した上で、国ごとに相違している制度や過程を理解するために、日本における企業別組合を中心とする労使関係の成立と発展について考察し、他の先進工業国との間で産業文明の上で共通である点と相違する点について分析する。

- 【講義計画】
1. 産業化（工業化）の論理

2. 産業化の歴史的経緯～いくつかの国を対象に～
3. 産業化への抵抗と摩擦～いくつかの国を対象に～
4. 先進工業国と日本との比較～製品市場・労働市場・技術・企業・社会～
5. 産業化のリーダーと労働組合のリーダー
6. 「産業民主主義」～労使関係の目指すもの～
7. 各国の労使関係制度の類似と相違
8. 歴史と制度～労使関係の混乱と制度化～
9. 戦後日本の労使関係の成立と発展（1）
10. 戦後日本の労使関係の成立と発展（2）
11. 「産業文明」における類似と相違
12. まとめ

【評価方法】 宿題20%。定期試験80%。

【テキスト】 講義の中で、必要に応じ資料を配布したり参考文献等を指示したりします。
 【その他】 次の書物は繰り返し言及しますので用意しておくことを薦めます。奥井智之『60冊の書物による現代社会論～五つの思想の系譜～』第6版（中公新書）中央公論社、1995年。下川浩一『日本の企業発展史～戦後復興から五〇年～』（講談社現代新書）講談社、1990年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11371	比較社会論	選必	秋学期	2	1～3	松戸 武彦	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 社会現象に関しては、直接的実験は限られた分野においてしか実施できない。そこで社会学においてこの実験の意味を持つのが「比較」である。我々は比較社会学という方法を通じて、我々の生きる世界を相対化し、客観化し、その特質を把握する。比較社会論の主題は、「近代社会」の特質を非近代社会との比較によって明らかにするものから、「近代社会」内部の諸類型、「非近代社会」の比較などに及ぶ。本講義ではとくに、中国、インド、アメリカ、日本の第二次集団の比較分析によって、4つの社会間での「世界観」に示される全体社会のデザインの差異を考察する。

【講義計画】 全体を四期に分けて行う。
 第一期 比較社会の視点 近代社会と産業社会
 第二期 マックスヴェーバーの比較の視点
 第三期 地域研究としての比較社会論
 第四期 比較社会研究の実際

【評価方法】 定期試験 授業への貢献度も評価する

【その他】 佐々木 衛、松戸武彦編『地域研究入門』

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11376	エコシステム論	選必	秋学期	2	1～3	藤本 潔	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 本講義では、エコシステム（生態系）の概念についての一般的な解説を行った上で、近年の人間活動の活発化に伴う生態系破壊の象徴的存在であるマングローブ生態系を取り上げ、そこでの植生、立地環境、動物、集水域および海域からの物質のインプットとアウトプットについて概説する。さらに、破壊されつつあるマングローブ生態系の修復のための取り組みを例に、地球環境保全のあり方を考える。

【講義計画】 第1回 エコシステム（生態系）とは？
 第2回 身近な里山「海上の森」を歩こう
 第3回 日本の森林の現状と課題
 第4回 陸と海の境界に成立する生態系、マングローブ生態系とその役割

- 第5回 マングローブ生態系を構成する生物の特徴と役割
- 第6回 マングローブ生態系を構成する立地環境と植生配列
- 第7回 マングローブ立地の形成・維持機構
- 第8回 マングローブ生態系と地球環境問題
- 第9回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み (1) フィリピン
- 第10回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み (2) タイ
- 第11回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み (3) ベトナム
- 第12回 人は生態系の中でいかに振舞うべきか？

【評価方法】 レポートと出席による。

【テキスト】 特になし。随時プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11401	総合政策論Ⅰ (現代文明論)	選必	秋学期	2	1・2	浜名 優美	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 近代の文明はあらゆる意味で「速度」を前提として「進歩」を目指して進んできたが、現代は文明の閉塞状況にあるという認識に立って、現代の文明論的課題を既成の学問領域を横断する形で総合的に論じる。具体的には近代社会論をルソーの「社会契約論」にまでさかのぼって検討し、グローバル化の進むなかでの民族や宗教を基盤とする文明の対立の問題などを扱う。

- 【講義計画】
- 1 文明論の視点はなぜ重要か
 - 2 「文明」と「文化」と「文明論」
 - 3 「文明」概念の歴史的検討 (18世紀から現代まで)
 - 4 速度について
 - 5 進歩について——技術は幸福をもたらすか
 - 6 文明の空間、文明の伝播、文明の拒絶、文明の衝突
 - 7 ルソーによる文明批判、知の歴史をふりかえる
 - 8 梅棹忠夫の文明学、生態から観光まで
 - 9 伊東俊太郎による比較文明学、領域・横断の知
 - 10 現代文明論の可能性
 - 11 予備
 - 12 総括

【評価方法】 レポートによる。(欠席過多を適用する)

【テキスト】 なし。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11406	総合政策論Ⅰ (現代国家論)	選必	秋学期	2	1・2	野田 宣雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 近代のヨーロッパに関して、主権国民国家がいかにして成立し発展を遂げたかを述べ、それが19世紀から20世紀にかけて日本を含む非西欧世界の国家形成にいかなる影響を与えたかを論じる。さらに現代のグローバル化の傾向のなかでヨーロッパとアジアで国家がいかなる変容を遂げようとしているかを考究する。

- 【講義計画】
- ① マックス・ヴェーバの支配類型論
 - ② 主権国民国家の危機
 - ③ 近代主権国家の特性
 - ④ 前近代の支配の型態
 - ⑤ 現代国家の将来

【評価方法】 成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にして定める。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11411	総合政策論 I (現代企業論)	選必	春学期	2	2	猪木 武徳	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 現代日本企業の統治構造を、主として人的資源の管理・開発の面から解説する。取り上げるテーマは、採用管理、配置、雇用調整、報償制度、昇進管理、団体交渉、労働協約、労使協議制、労働者の経営参加、そして労働争議である。分析は、産業民主主義の進展が人材の育成とどうかかわるのか、競争と協調が、産業の現場でどのようにバランスを取りながら生産性に貢献しているのか、という視角からなされる。

【講義計画】 以下の10のトピックについて経済学的視点から関連資料と統計データを配布して講義する。
 1) 企業をめぐる歴史的・法的・経済学的議論 2) ガバナンスとアドミニストレーション
 3) 技能形成・人材育成の場としての企業 4) 採用と配置 5) 昇進管理 6) 報酬の水準と格差
 7) 雇用調整 8) 労働組合と団体交渉 9) 労働者の経営参加 10) 産業民主主義と人材育成

【評価方法】 中間試験と期末試験を4：6の比率でウェイト付けして評価する。

【テキスト】 講義のレジュメを配布する。次の二点を参考書として挙げておく。
 白井泰四郎『現代日本の労務管理』(第2版) 東洋経済新報社、1992年、小池和男『仕事の経済学』(新第2版) 東洋経済新報社、1999年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11416	総合政策論 I (公共政策論)	選必	秋学期	2	2	加藤 尚史	
他の科目との関連	ミクロ経済学・マクロ経済学					他学科履修	可

【講義内容】 本講義では、「民間の活動は一定な条件のもとで一定な意味での望ましい状態を実現する」という命題に関して条件の現実性と意味の妥当性を検討するため、都市生活、居住環境、労働環境、生活環境などの地域社会の現状や問題と、これに対する国や地方公共団体の政策について学ぶ。

【講義計画】
 1. 序論
 2. 民間部門の活動
 3. 公共部門の活動

【評価方法】 定期試験と出席状況に基づいて評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11421	総合政策論 I (グローバルガバナンス)	選必	春学期	2	2	橋本 日出男	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 現在、世界が直面している問題（たとえば、環境、資源、人口爆発、先進工業国と途上国間の所得格差）を解決するためには、どのような方法をとればよいのだろうか。世界の資源は限られているのであるから、政策目標に順序をつける必要があるだろう、その順序づけを行うに当たって、国民の間で、あるいは、国際間で、どのように合意を作り上げていけばよいのだろうか、そして、合意が得られたとして、それをどのような形で実現していけばよいのだろうか、といった問題を考える。

【講義計画】 1学期に3つか4つの大きいテーマを与える。それぞれのテーマのはじめに、教官がイントロダクショ

ンを与えるとともに、そのテーマに関連した参考書、論文、新聞記事やインターネットを紹介する。そうした参考資料に基づいて、クラスで発表し討論をする。各テーマの終りにレポートを書き提出する。

【評価方法】 各テーマの終りに提出するレポート、クラスでの発表・討論及び期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】 なし。随時、参考資料を紹介する。

【その他】 このコースでは読むこと、考えること、書くことを教える。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11426	総合政策論Ⅱ（環境政策論）	選必	秋学期	2	2・3	目崎 茂和	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 マグロ・クジラとゴミ問題

【講義内容】 本講義では、環境政策の課題や問題点を中心に学習する。具体的には、地球温暖化と深く関わる海洋環境の問題に対する国際的、国内的取り組みを始めとして、今日の主な環境問題に対する国際条約、環境基本計画、環境アセスメントなどの環境行政や市民運動について概説する。

【講義計画】

- I) マグロに学ぶ環境政策論
政策論の環境とは、
自分自身の環境政策論を作成できるか
- II) 地球・地域の環境政策論
地球温暖化問題とその政策論
さまざまな地域環境問題
- III) 環境政策とその対応論
国際条約
環境基本法と環境基本計画
企業の環境政策論
自然保護とそのNPO運動
ゴミ問題と愛知県

【評価方法】 レポート、テストなど

【その他】 沖縄本島での野外実習を予定（希望者のみ）
長良川河口堰・藤前干潟ないしゴミ処理場への見学実習

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11431	総合政策論Ⅱ（国際相互依存論）	選必	春学期	2	2・3	須藤 季夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 国際関係の相互依存関係が進展する中で、国内においては地域分権化が要請されるとともに地方の国際化が活性化している。この傾向が強化されるとグローバリズムそして国際相互依存も促進されることになる。地方、地域と国際社会が複合的に関連しつつある現状をケース・スタディーに基づきながら学習する。

【講義計画】

- 1 総合政策論とは何か
- 2 国際社会の捉え方
- 3 相互依存の世界
- 4 政治・経済のグローバル化
- 5 国際社会のレジーム化と政策調整
- 6 政策協調と予防外交
- 7 国際交渉と紛争解決
- 8 アジアの地域紛争と日本の役割

- 9 東アジアの地域化
- 10 地方分権化と地域交流
- 11 民際外交の可能性
- 12 国際政策論をめざして

【評価方法】 レポートと期末試験

【テキスト】 渡辺昭夫編 現代日本の国際政策 有斐閣 1997

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11436	総合政策論Ⅱ（人的資源論）	選必	春学期	2	2・3	藤原 道夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 公教育や公的職業訓練を経て、企業が採用する人的資源に焦点を合わせる。企業内において、技能系や事務・技術系従業員についてどのような人材形成を求めているのかという点について、固有技術・技能や会社人としての意識醸成や業務改善・管理技術に関する人材形成について講義する。さらに、人材形成とは、狭義の教育・訓練の領域にとどまらないことを指摘し、日本企業に将来必要とされる人材像について論じる。

【講義計画】

1. 人的資源と経済発展
2. 社会移動と教育・訓練投資
3. 公教育の展開と人的資源
4. 公的職業教育・訓練と人的資源
5. 企業内職業教育・訓練と人的資源
6. 日本企業の人材形成・育成（1）
7. 日本企業の人材形成・育成（2）
8. 人材形成・育成の国際比較
9. 企業内の人事・労務システムと人材形成・育成
10. 社会・経済の環境変化と人材形成・育成の変化
11. まとめ

【評価方法】 宿題20%。定期試験80%

【テキスト】 なし

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11441	総合政策論Ⅱ（組織行動論）	選必	秋学期	2	2・3	高橋 潔	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 心理学における研究法・測定法に基づいて、経営組織における人間行動や従業員の態度を研究してきた様々な応用心理学研究と、その背景にある基礎心理学理論を取り上げる。その際、組織で働く従業員の個人行動や個人差、上司・同僚・部下との間の対人関係や職場での集団過程、ならびに職務構造・組織構造を含めた組織過程に焦点をあてる。とくに、欲求・職務満足・組織コミットメント・動機づけ・職務設計・ストレス管理・集団葛藤・意思決定・リーダーシップ・キャリア開発・組織構造・組織文化・組織開発などに関連する諸研究を考察する。

- 【講義計画】**
1. 経営管理と組織行動
 2. モティベーション（1）
 3. モティベーション（2）
 4. 職務満足・組織コミットメント
 5. 職務設計
 6. ストレス管理
 7. 集団葛藤
 8. 意思決定
 9. リーダーシップ
 10. 組織開発

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 田尾雅夫（1991）組織の心理学 有斐閣ブックス

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11501	国際社会と法	選	春学期	2	2～4	青木 清泉 岡田	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 国境を越えた人々の活動が増加・活発化するに伴い、世界では様々な紛争が発生している。それは、国家間レベルでの紛争であったり、私人間レベルでの紛争であったりする。本講義では、これらの国際的なトラブルにつき、法的な観点から分析し、その紛争の解決システムあるいは国際社会の中での法の役割といったことを考察する。
とはいえ、まだ専門的に法律学を勉強した経験のない学生がほとんどであろうと思われるので、当初数回は、法律学への誘いといった役割を担えるトピックを扱うことにする。

- 【講義計画】** おおよそ下記のような内容を扱う。
- 1 ケーキの分け方—法律学への誘い
 - 2 法律学の世界
 - 3 日本社会と法
 - 4 国際社会と法
 - 5 紛争解決と法
 - 6 国籍と法
 - 7 国際関係と法（1）
 - 8 国際関係と法（2）
（以上、青木担当分）
 - 9 国際法の課題：
武力行使の禁止と安全保障（国連の理念と現実）
 - 10 核兵器の規制
（広島長崎からNPTを経てCTBT、ICJ勧告的意見まで）
 - 11 国家管轄権と国際犯罪
（管轄権の種類と適用原則、国境を越えた犯罪取締の問題）
 - 12 国際刑事裁判の意義と限界

(IMT (FE), ICTY, ICTR, ICC)

【評価方法】 評価は、学期末の試験による。

【テキスト】 教科書は特に用いないが、講義には、小型のもので構わないので必ず六法を持参すること。参考書は、講義中に適宜紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11503	日本政治論	選	秋学期	2	2~4	坂本 隆幸	
他の科目との関連	この授業を取る前に、共通科目「政治学」と総合科目「政治学概論」をすでに履修していることが非常に望ましい。					他学科履修	可

【講義内容】 戦後の日本政治を、国際政治経済環境、政治システムとその影響、自民党一党支配、官僚制度とその役割などの観点から概観する。さらに、1989年以降の選挙制度改革、政界再編、連立政権による支配、財政改革、福祉改革など一連の変化の原因と影響を吟味する。最後に、日本の政治現象・行動を説明する際に、普遍的説明が可能なのか、それとも固有の文化的説明が必要なのかを、外国の政治制度・現象との比較を通して考える。

【講義計画】 本授業では、日本の政治システムと政治経済システムがいかに機能するかを国際比較の観点から分析する。授業の目的は、政治・経済システムを社会科学的方法論によって理解することによって、日本の時事評論を行うことではない。授業では毎週、トピックについてテキストの購読をもとにした討論を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。学期の後半では、学生の研究レポートの経過発表とそれについての討論を行う。

- 第1週 インTRODクダクシヨン
- 第2週 日本政治の従来のイメージ—55年体制
- 第3週 ポスト1993連立政治
- 第4週 文化人類学的日本論
- 第5週 ミクロ経済的日本論
- 第6週 日本の政治経済—経済システムとマクロ経済
- 第7週 日本の政治経済—福祉
- 第8週 日本の政治経済—国際比較
- 第9週 政治システム
- 第10週 研究発表
- 第11週 研究発表
- 第12週 研究発表、授業の総括 (予定)

【評価方法】 成績の評価(単位の不可)は、(1) どれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけよくクラスでの討論に参加しているか、(2) 学期末提出の研究レポートの質で決める。(クラス参加とレポート提出のどちらが欠けても単位は取得できない) 成績(100%)のうち、テキストの熟読・理解、討論参加は40%、研究レポートは60%。60点未満は不可。研究レポートはA4紙にダブルスペースで20枚程度。

【テキスト】 Bradley Richardson, *Japanese Democracy: Power, Coordination, and Performance* (New Haven: Yale University Press, 1997) (予定)

【その他】 ここに記載されているテキストと各週のトピックは暫定的な予定なので、最終的な詳細は授業第1週に配るシラバスを参照のこと。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11505	人権政策論	選	春学期	2	2~4	小林 武	
他の科目との関連	「憲法」を受講することが望ましい。					他学科履修	可

【副題】 「人権」実現の課題を考える

【講義内容】 「人権」＝基本的人権は、21世紀においても、政策展開のキーワードとなる。欧米の立憲主義の歴史の中で生まれ育った人権の観念は、その後全地球的なものとなり、今日では、各国の対外政策上の原理ともされている。わか国でも、今なお人権実現のために解決されるべき課題は多い。講義では、人権にかかわる制度を概観し、また裁判例などにあらわれる問題をとおして人権の現状を明らかにした上で、企業などの団体および国家における人権実現のための政策のあり方を、人権の国際的保障に留意しながら考える。

- 【講義計画】**
- 1 開講にあたって。人権＝基本的人権とは何か
 - 2 人権の成立とその体系
 - 3 人権の享有者・侵害者
 - 4 人権を制限する論理
 - 5 人権保障のためのしくみ——日本
 - 6 国際的人権保障のしくみと課題
 - 7 人権の実現とその阻害要因
 - 8 人権実現の制度としての裁判所
 - 9 違憲審査——その制度と歴史
 - 10 違憲審査に問われるもの
 - 11 違憲審査制のあるべき姿
 - 12 人権政策の課題。閉講のことば

【評価方法】 テスト（筆記試験）による。

- 【テキスト】**
- ① 小林 武著『ようこそ日本国憲法へ』（法学書院、2200円）
 - ② 講義の際に指示する。

【その他】 人権をめぐる社会に生起している具体的な問題に注目して、わかりやすい講義にしたい。そのため、新聞やTVに報道された事実などを多くとりあげて話す。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11507	環境保全論	選	春学期	2	2～4	目崎 茂和	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ジュゴン・サンゴの海から地球を守りたい

【講義内容】 本講義では、なぜ自然を守る必要があるのか、どのようにして生活環境を守ればいいのかといった環境保全や環境教育の課題を学ぶ。そのために、身近な自然である森林、里山、河川と湿地・湖沼、海浜あるいは干潟などの自然とその生態系の仕組みを紹介し、その環境の悪化をもたらす問題を指摘し、環境保全のあり方を総合的に考える。

- 【講義計画】**
- I) 環境保全がなぜ必要なのか
環境とは、地球、自然、生活圏など対象がさまざま
自分自身の環境保全論を作成できるか
 - II) 保全すべき環境とは
サンゴの海からみた地球環境問題
さまざまな自然環境と保全問題
 - III) 環境保全の行方
公害とその防止
自然保護とその運動
海上の森をどうするか

【評価方法】 レポート、テストなど

【その他】 沖縄・石垣島サンゴ礁での野外実習を予定（夏休み・希望者のみ）
海上の森での実習

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11511	経済政策論	選	秋学期	2	2~4	水谷 重秋	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 資本主義国家においては、経済問題は主として市場機構を通じて解決されることになっている。しかし実際のところ、この機構にはいくつもの重大な欠陥がある。市場機構ですべての経済問題がうまく解決されるわけではないのである。資本主義国家の政府には、この市場の欠陥を補完する役割、すなわち資源配分機能、経済安定化機能、富と所得の再配分機能という3つの役割がある。本講義では、これら3つの機能を、ミクロ経済学とマクロ経済学の知識を援用しつつ解説する。

【講義計画】 以下の項目を2~3回の講義で解説してゆく。
 経済政策の理論的基礎（経済政策の目標、政策主体と意思決定機構）、経済の成長と安定（成長と安定の理論と経済政策、財政政策、金融政策）、資源配分と価格機構（資源配分政策の基準、厚生経済学の基本定理、外部性と公共財の問題）、所得配分（所得配分の基準、最低水準の保障）、環境政策とエネルギー政策（環境破壊の現状と環境政策、エネルギー問題の現状とエネルギー政策）

【評価方法】 期末試験と小テストの結果を総合して評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11513	現代家族と法	選	秋学期	2	2~4	松倉 耕作	
他の科目との関連	民法、憲法					他学科履修	可

【講義内容】 現代家族が直面する諸問題のうち、いわゆる「家族法」を軸に、家族政策、国際家族法（国際私法、たとえば国際結婚）に論及する。法律システムの概要を述べた上で、立法の変遷や判例の変化などにも留意する。とくに、家族機能の変遷、親子関係の位置づけの変化、不貞に対するサンクションの変遷、離婚手続の変遷などを取り上げて考察する。

【講義計画】

- 1 夫婦
 - (1) 結婚
 - (2) 離婚
- 2 親子
 - (3) 嫡出子
 - (4) 非嫡出子
 - (5) 養子
 - (6) 人工授精子
- 3 相続
- 4 家庭裁判所

【評価方法】 試験の結果のほか、レポート、平常点をも考慮する。

【テキスト】 松倉耕作『家族法』一粒社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11601	政治過程論	選	夏期集中	2	2~4	福井 治弘	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 デイヴィッド・イーストンのシステムの分析枠組みに拠って、現代社会における政治過程を政治制度、政治文化、さらに経済と社会の構造や制度との関連の中で考察する。とくに、日本や欧米の先進工業諸国における政治過程の実際を、行政機構、選挙、政党、利益集団、マスメディア等の構造と機能を中心に説明する。

- 【講義計画】**
1. 政治過程の理論と方法
 2. 政策決定過程
 3. 課題設定・政策実施・政策評価
 4. 政治システムと個人
 5. 世論と投票行動
 6. 選挙制度と政治参加
 7. 利益団体
 8. 政党
 9. 議会と立法過程
 10. 官僚制と政策過程
 11. 政策ネットワーク
 12. 執政集団とリーダーシップ
 13. 国際化における政治過程

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 伊藤光利、田中愛治、真淵勝著 「政治過程論」 有斐閣

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11603	国際開発論	選	春学期	2	2～4	橋本 日出男
他の科目との関連						他学科 履修可

【講義内容】 ここでは、世界銀行、国際通貨基金（IMF）、国際連合や各国の政府、あるいはNPOが、どのような形で途上国の開発に関する政策を形成し、それを実行しているかを考える。政策目標とは何か。政策実現の方法として何があるか。経済問題、政治的あるいは社会的問題をどのように調整していけばよいのか。こうしたことを考えるため、いくつかの途上国をとりあげケース・スタディをする。

【講義計画】 コースの前半では、開発政策について一般的な勉強をする。はじめに、教官がイントロダクションを与えるとともに、開発政策に関連した参考書、論文、新聞記事やインターネットを紹介する。そうした参考資料に基づいて、クラスで発表し討論し、レポートを書く。後半は途上国の数か国を選んでケース・スタディをする。その際、コンピューターで経済のモデルを作り、政策のシミュレーションを行い、レポートを書く。

【評価方法】 レポート、クラスでの発表・討論及び期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】 なし。随時、参考資料を紹介する。

【その他】 読むこと、考えること、書くことのトレーニングに加え、コンピューター・モデルにも慣れることを目指す。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11605	官僚機構論	選	秋学期	2	2~4	深井 慈子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 現代国家・社会における行政官僚の地位と仕組みとしての官僚機構の政治的役割を検討する。とくに、日本や欧米諸国における行政官庁・議会・利益集団間の、いわゆる「鉄の三角形」関係の役割を踏まえつつ、官僚機構について考察する。

- 【講義計画】**
1. 科目の目的と内容、講義計画
 2. 現代行政と執行の理論
 3. 行政組織の理論
 4. 行政管理の理論
 5. 行政行動の理論
 6. 財務行政の理論：予算理論の動向
 7. 都市行政の理論と展開
 8. 比較行政の理論
 9. 公共政策と市場原理
 10. 政策実施の理論
 11. 政策評価の理論
 12. 結び：官僚機構論と民主政治

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 宇都宮深志・新川達郎 『行政と執行の理論』 東海大学出版会、1995年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11607	労働経済論	選	秋学期	2	2~4	村松 久良光	
他の科目との関連	マクロ経済学 総合政策論Ⅰ(現代企業論) 総合政策論Ⅱ(人的資源論) 総合政策論Ⅲ(労働問題と政策) 日本経営論 経営労務論					他学科履修	可

【講義内容】 仕事をする能力、とくに、企業などの組織で重要な判断を必要とする能力がいかに形成されるのかという視点から、労働市場および企業内の雇用システムのあり方を国際比較し、検討する。学歴・職業資格と労働市場の態様、企業内の雇用形態と報酬制度のあり方、生産職場における技能形成、知的熟練の理論、ホワイトカラーの昇進システム、日本の人材形成方式の海外通用性などのテーマについて事例を示しながら学ぶ。

- 【講義計画】** 基本的には下記のテキストに沿って説明し、統計資料や事例を参考資料として追加して進める。
序説：さまざまな労働者グループ
- 1：知的熟練
 - 2：大企業労働者のキャリア
 - 3：大卒ホワイトカラーの人材開発
 - 4：報酬pay-年功賃金か
 - 5：日本方式の海外通用性

【評価方法】 授業への参加熱心度を加味し、筆記の定期試験の成績によって評価する。

【テキスト】 小池和男『仕事の経済学第2版』(東洋経済新報社、1999)
授業には必ずテキストを持参すること。
この講義ではテキストの約半分しか使わないが、後半部分については3年次秋学期に開く総合政策論Ⅲ(労働問題と政策)のテキストとして利用するから、無駄にはならない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11611	政治行動論	選	春学期	2	2~4	坂本 隆幸	
他の科目との関連	この授業を取る前に、共通科目「政治学」と総合科目「政治学概論」をすでに履修していることが非常に望ましい。					他学科履修	可

【副題】 比較政治経済学の観点から

【講義内容】 政治の世界における議員、官僚、市民、利益集団などの行動の多角的な分析を通して、社会における人間行動の理解に努める。経済学や政治学などの分野での代表的な人間行動に関する理論や説明を概観し、それらの理論的・経験的妥当性を検証する。その際、個人レベル、集団レベル、社会レベルから人間行動を説明・理解すること、そして個々の人間行動のレベルから社会現象を説明・理解することの妥当性も精査する。

【講義計画】 本授業では、様々な政治行動や政治現象が何によって説明できるのかを比較分析的立場から検証する。説明要因として、個人の功利的利害、文化・社会的規範、政治経済制度、思想などの影響の可能性を考え、いかなる説明が妥当かを探る。授業では毎週、トピックについてテキストの購読をもとにした討論を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。学期の後半では、学生の研究レポートの経過発表とそれについての討論を行う。

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 比較政治理論・分析方法のこれまでの展開 (Lichbach and Zuckerman第1章)
- 第3週 合理選択論 (Lichbach and Zuckerman第2章)
- 第4週 文化の行動への影響 (Lichbach and Zuckerman第3章)
- 第5週 構造とコンテクストの影響について (Lichbach and Zuckerman第4章)
- 第6週 制度論 (Lichbach and Zuckerman第7章)
- 第7週 国家について (Lichbach and Zuckerman第8章)
- 第8週 社会的説明 (Lichbach and Zuckerman第9章)
- 第9週 現在の研究課題と比較政治 (Lichbach and Zuckerman第10章)
- 第10週 研究発表
- 第11週 研究発表
- 第12週 研究発表、授業の総括

【評価方法】 成績の評価(単位の不可)は、(1) どれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけよくクラスでの討論に参加しているか、(2) 学期末提出の研究レポートの質で決める。(クラス参加とレポート提出のどちらが欠けても単位は取得できない) 成績(100%)のうち、テキストの熟読・理解・討論参加は40%、研究レポートは60%。60点未満は不可。研究レポートはA4紙にダブルスペースで20枚程度。

【テキスト】 Mark Irving Lichbach and Alan S. Zuckerman (eds.), *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure* (Cambridge: Cambridge University Press, 1997).

【その他】 授業のさらなる詳細は、第1週目の授業で配るシラバスを参照のこと。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11613	公会計論	選	春学期	2	2~4	亀井 孝文	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 近年、先進諸国を中心として「小さな政府」実現をめぐる議論がさかに行われ、行政活動を効率的・効果的に行うという目標のために地方分権を含む行政改革がさかんに論じられている。財政制度の一環としての公会計において、世界の議論の流れは財務資源のみを対象とする現金主義会計から経済資源にまで対象を拡大した資源会計に移行しつつあり、わが国においてもこの問題はますます重要視されつつある。本講義では、納税者の観点の行政評価はもちろん行政職公務員のための教育も視野に入れている。

【講義計画】 (1) 非営利組織における会計
(2) 政府・地方自治体の財政構造
(3) 公会計制度の法的枠組

- (4) 公会計制度の概要 (1) 政府会計 (一般会計の全体像と内容)
- (5) 公会計制度の概要 (2) 政府会計 (特別会計の全体像と内容)
- (6) 公会計制度の概要 (3) 政府会計 (特殊法人と財政投融资)
- (7) 公会計制度の概要 (4) 地方自治体会計
- (8) 公企業の現状 (特別会計と「国の企業」)
- (9) 公会計制度改革の論理 (行政運営の経済性、効率性、効果性)
- (10) 公会計制度改革論の動向 (1)
- (11) 公会計制度改革論の動向 (2)
- (12) 公会計制度改革論の動向 (3)
- (13) 公会計制度改革論の動向 (4)
- (14) 予備

【評価方法】 レポートおよび学期末の試験による。

【テキスト】 クラウス・リュウダー著／亀井孝文訳 『地方自治体会計の基礎概念』、中央経済社 2000年

【その他】 参考資料として新聞記事を機会あるごとに配布する。受講者自身も財政、地方自治、会計等に関する新聞記事を自らの関心で読み、日常的にそれらの知識を吸収するようにすることが望ましい。